

脾臓腫瘍

●プロフィール

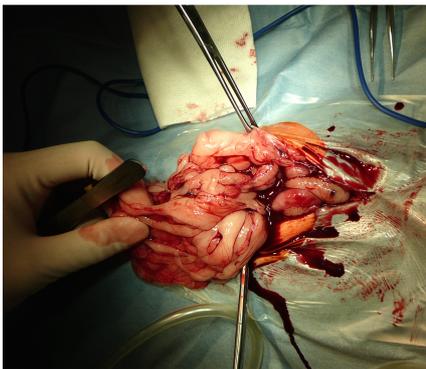
- ・疫学：脾臓に発生した腫瘍の43～73%は腫瘍。
（犬）血管肉腫、血管腫、リンパ腫、肉腫など
（猫）肥満細胞腫、血管肉腫など
- ・年齢：平均9～10歳（血管肉腫）。
- ・好発犬種：ジャーマンシェパード、G・レトリバー、L・レトリバーなど。
- ・発生状況：（血管肉腫）脾臓以外にも、右心房、皮膚、肝臓、肺、腎臓、筋肉、骨などにも発生。
（他の肉腫）線維肉腫、平滑筋肉腫、未分化肉腫、組織球性肉腫。
- ・臨床所見：血腹症（脾臓破裂）、貧血、急性虚脱、心室性不整脈、ショック、DICなど。
- ・挙動：（犬血管肉腫）血行性に急速に転移する、肺と肝臓が好発転移部位。
他には腎臓、脾臓、副腎、筋、腹膜、皮膚などへ転移。
- ・ステージング（脾臓血管肉腫）
ステージⅠ：局在性脾臓血管肉腫
ステージⅡ：血腹症を伴う（破裂した）局在性脾臓血管肉腫
ステージⅢ：転移を伴う脾臓血管肉腫
- ・治療法：外科手術による脾臓摘出。
術後に抗癌剤による補助的化学療法を行うことで生存期間の延長が期待できる。
- ・予後：（犬血管肉腫）脾臓摘出のみの生存期間 19～143日（Wood 1998）。
脾臓摘出後に補助的化学療法 141～179日（Hammer 1991）。

（犬の他の肉腫）中央生存期間 4ヶ月、12ヶ月後には80～100%が死亡。

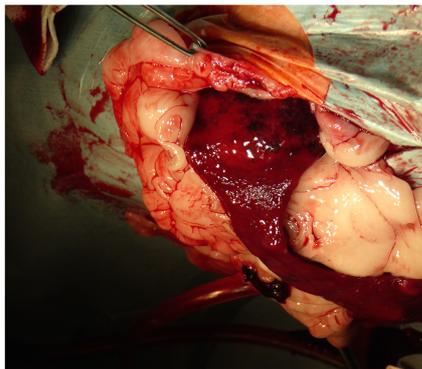
【臨床症例】

* 犬の血管肉腫

- ・ 症例：マルチーズ、10歳11ヵ月齢、雌。
- ・ 主訴：本日からの食欲不振、嘔吐、腹囲膨満。
- ・ 症状：腹囲膨満。
- ・ 検査：脾臓腫瘍、血腹症を確認。
リンパ節転移・遠隔転移所見なし。
- ・ 臨床診断：脾臓腫瘍。



腹腔内出血



破裂した脾臓腫瘍



摘出した脾臓

- ・ 治療：外科手術による脾臓摘出術。
- ・ 確定診断：血管肉腫 ステージII。
- ・ 経過：術後、補助的化学療法を提示するも希望せず。
術後135日に死亡。

【臨床症例】

* 犬の血管肉腫

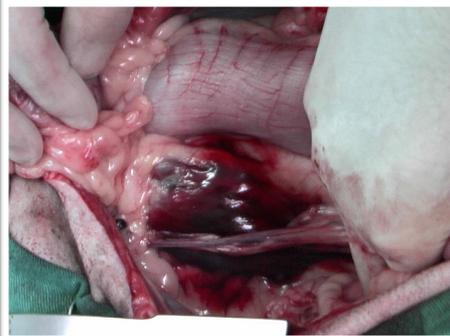
- ・ 症例：雑種中型犬、13歳8ヵ月齢、雄。
- ・ 主訴：10日前に背側頸部に皮膚腫瘍発生、急速に拡大傾向を示す。
- ・ 症状：背側頸部に皮膚腫瘍、一般状態良好。
- ・ 検査：脾臓腫瘍、腰下リンパ節腫大、両側腎臓に結節性病変を確認。
- ・ 臨床診断：脾臓腫瘍。



背側頸部の皮膚腫瘍



脾臓腫瘍



腰下リンパ節



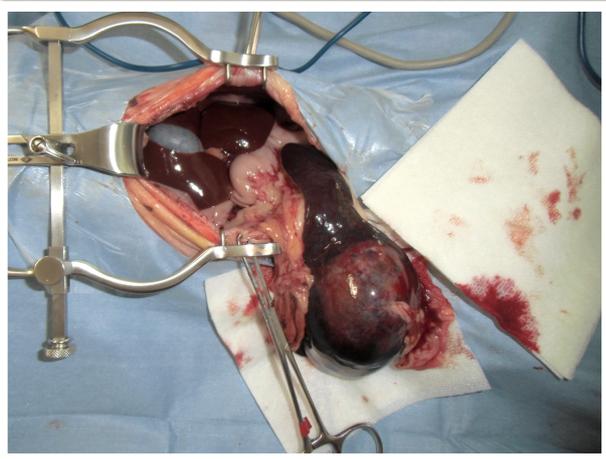
腎臓の結節性病変

- ・ 治療：外科手術による脾臓摘出術、皮膚腫瘍切除術、腰下リンパ節生検術。
- ・ 確定診断：全て血管肉腫 ステージⅢ。
- ・ 経過：術後、補助的化学療法を提示するも希望せず。
術後68日に死亡。

【臨床症例】

* 犬の血管肉腫

- ・ 症例：ミニチュアダックスフンド、16歳8ヵ月齢、雄。
- ・ 主訴：本日、突然の元気消失を示し動かない。
- ・ 症状：元気消失。
- ・ 検査：脾臓腫瘍、血腹症、貧血、肺転移あり。
- ・ 臨床診断：脾臓腫瘍の破裂。



破裂した脾臓腫瘍



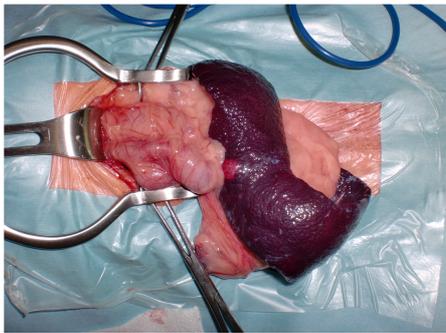
摘出した脾臓

- ・ 治療：輸血後、外科手術による脾臓摘出術。
- ・ 確定診断：血管肉腫 ステージⅢ。
- ・ 経過：術後、メトロノーム化学療法（低用量CPM + フィロコキシブ）を実施。
2015年1月現在、術後1年4ヶ月になるが存命。
肺転移病変は術後11ヶ月まで変化なく、その後緩徐に拡大中。

【臨床症例】

* 犬の線維組織球性結節 グレード 1

- ・ 症例：パグ、7歳2ヵ月齢、避妊雌。
- ・ 主訴：健康診断。
- ・ 症状：一般状態良好。
- ・ 検査：直径1cmの孤立性脾臓腫瘍を確認。
リンパ節転移・遠隔転移所見なし。
- ・ 臨床診断：脾臓腫瘍。



脾臓腫瘍



摘出した脾臓腫瘍



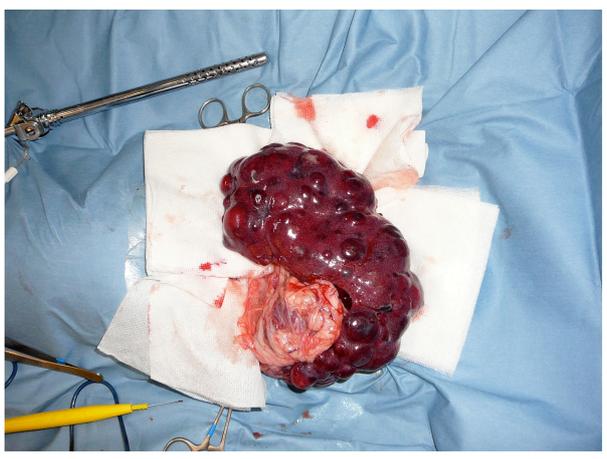
腫瘍断面

- ・ 治療：外科手術による脾臓摘出術。
- ・ 確定診断：線維組織球性結節 グレード 1。
- ・ 経過：術後、経過観察のみ。
2015年1月現在、術後3年8ヶ月になるが転移なし。

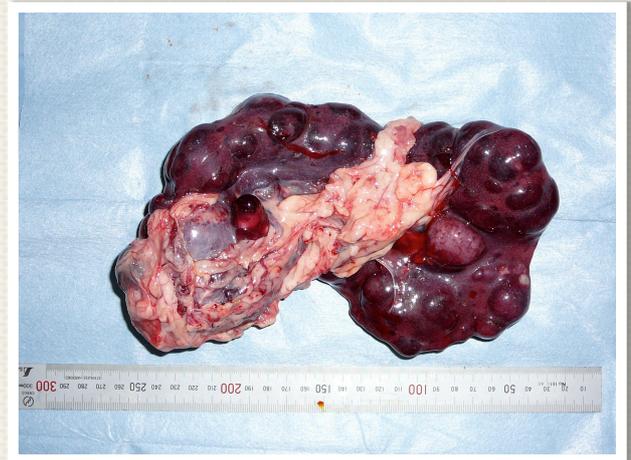
【臨床症例】

* 犬の線維組織球性結節 グレード 2

- ・ 症例：雑種中型犬、8歳10ヵ月齢、雌。
- ・ 主訴：1週間前からの食欲不振、腹囲膨満、。
- ・ 症状：食欲不振、腹囲膨満。
- ・ 検査：多発性脾臓腫瘍を確認。
リンパ節転移・遠隔転移所見なし。
- ・ 臨床診断：脾臓腫瘍。



脾臓腫瘍



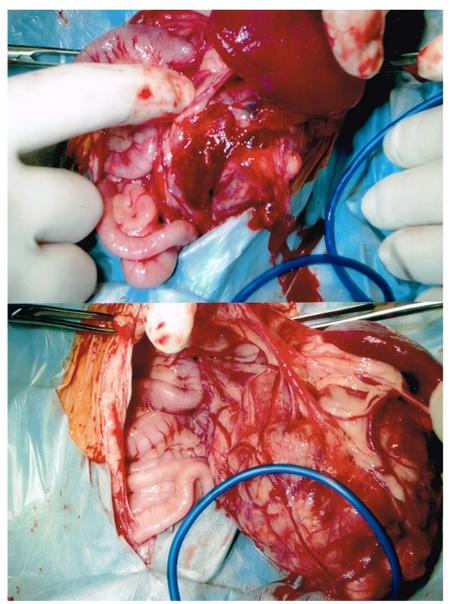
摘出した脾臓

- ・ 治療：外科手術による脾臓摘出術。
- ・ 確定診断：線維組織球性結節 グレード 2。
- ・ 経過：術後、ロムスチンによる補助的化学療法を5回実施。
術後6ヶ月に肝転移による肝不全のため死亡。

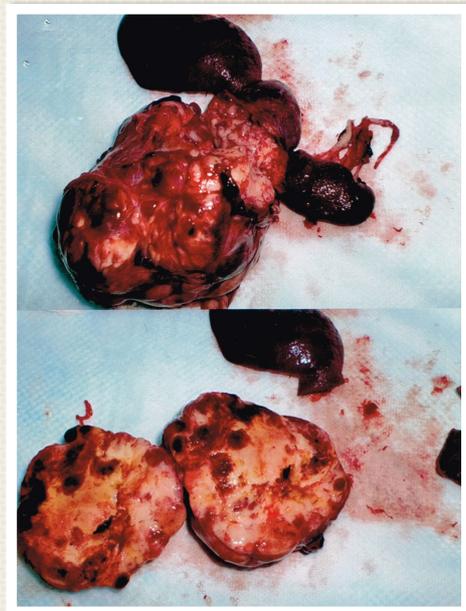
【臨床症例】

* 犬の線維組織球性結節 グレード 3 (高悪性度)

- ・ 症例：ヨークシャーテリア、13歳齢、雌。
- ・ 主訴：3週間前からの食欲不振。
- ・ 症状：食欲不振。
- ・ 検査：多発性脾臓腫瘍を確認。
リンパ節転移所見あり・遠隔転移所見なし。
- ・ 臨床診断：脾臓腫瘍。



脾臓腫瘍



摘出した脾臓

- ・ 治療：外科手術による脾臓摘出術。
- ・ 確定診断：線維組織球性結節 グレード 3。
- ・ 経過：術後9日に全身状態の悪化により死亡。

【臨床症例】

* 猫の脾臓肥満細胞腫

- ・ 症例：日本猫、11歳齢、避妊雌。
- ・ 主訴：1週間前からの間欠的嘔吐が見られ、2日前から食欲廃絶。
- ・ 症状：嘔吐、食欲廃絶。
- ・ 検査：脾腫を認め、他に軽度な貧血と白血球増加症が認められた。
脾臓の細胞診にて肥満細胞が確認された。
- ・ 臨床診断：脾臓肥満細胞腫。



摘出した脾臓

- ・ 治療：外科手術による脾臓摘出術。
- ・ 確定診断：脾臓肥満細胞腫。
- ・ 経過：術後、末梢血には肥満細胞が出現。
COPプロトコールによる補助的化学療法を行い、末梢血の肥満細胞は消失した。